

01 東京外国語大学

国内外に向けた37言語のオンライン講座をスタート

東京外国語大学は、2006年から広く大学生や社会人を対象に「TUFs オープンアカデミー」を開講し、延べ2万人の受講者に語学や教養の講座を提供してきた。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、昨年11月に全講義をオンラインに移行し、新たなスタートを切った。

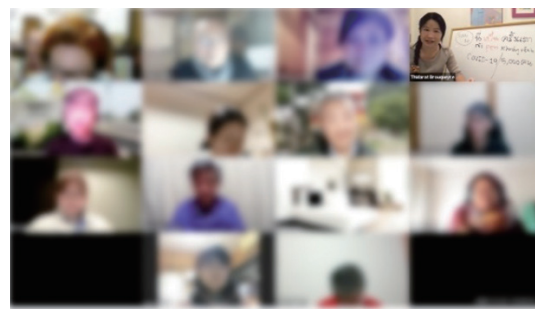
2020年度秋期間は、37言語の語学など全120講座をオンラインで実施し、延べ2,241名が受講。うち25%は、従来の教室型では受講できなかった首都圏外や海外からの受講者だ。今春には45言語の語学など150講座を開講予定である。アムハラ語、ポーランド語など、日本国内では学習の機会が少ない講座も多数提供する。



120 講座・37 言語のオンライン講座を提供

コロナ禍を受けて広がった教育のオンライン化は、大学教育のみならず、大学の行う社会貢献事業も大きく変えていく。同大学は、これまでも言語教育・異文化理解教育を社会人向け講座の形で提供してきたが、オンライン化によりその裾野は日本全国に広がった。

外国人労働者の受入れなどに伴い、日本のどこにいても、様々な言語、異文化や異なる価値観に対する理解が求められる現在、こうした学習の機会を必要としている人々、現場は数多い。オンライン講座への反響は大きく、さらに多様な言語、文化講座への要請も高まっている。その期待に応え、事業をさらに拡大していく予定である。



タイ人ネイティブ講師によるタイ語中級会話クラス

02 茨城大学

実績とステークホルダーの協力を礎に、大学教育のDXを促進

茨城大学では、コロナ禍以前からBYOD 環境や情報支援体制の整備を推進。そのため遠隔授業もスムーズに開始された。遠隔授業に関する全学FDも20回近くに及び、同大学の強みでもある体系的な教育質保証のための調査システムにより、遠隔授業の効果もいち早く検証することができた。

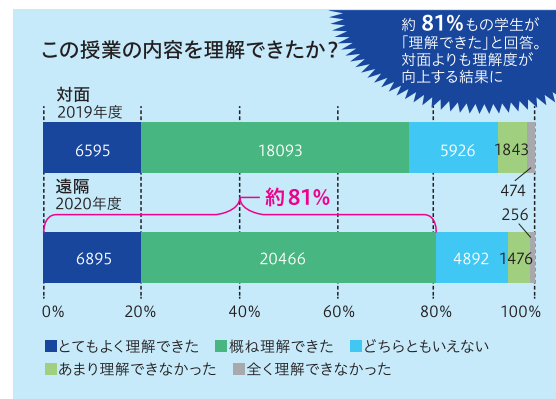
調査では、遠隔授業において理解度・満足度、授業外学修時間の向上が確認されたことから、デジタルコンテン

ツを生かした授業の有効性を確信。一方、それらの取組の推進には学内外のステークホルダーの理解が欠かせないため、戦略的な広報を展開した。授業調査結果に関するプレスリリースは、全国規模のテレビやWEBニュースでの報道にもつながった。また、授業調査の結果を踏まえ、学生たちが今後の望ましい授業のあり方を発表する取組もあった。さらに、昨春秋に実施したオンライン教育に関するシンポジウム(共催:国立大学協会)では、茨城県内の他の大学等の参加も得て、地域で連携した教育改革の姿勢も訴求した。

今後はステークホルダーの理解・協力のもと、スライドや動画等の授業コンテンツを事前学修に生かすような新たな授業スタイルへの転換により、大学教育のDXを率先して進めていく。



遠隔授業を経験した学生による授業に関するプレゼンテーション



前期の授業調査結果の例

03 信州大学

オンラインによる1年生のための学修支援体制を構築

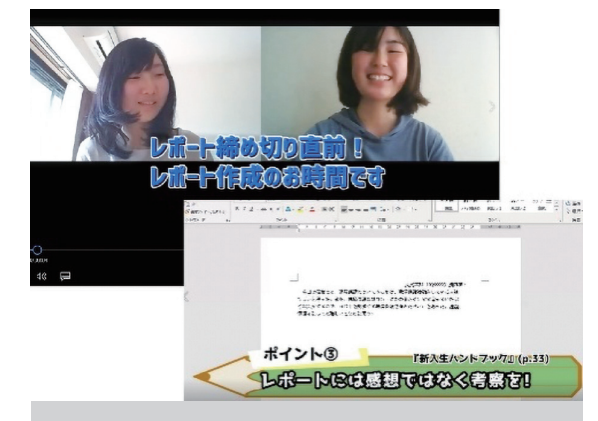


オンラインでの学修相談対応の様子

信州大学では、全学部の1年生が利用する中央図書館においてピアチューターによる学修支援サービス「ピアサポ@Lib」を行っている。「ピアサポ@Lib」はラーニング支援部門とライティング支援部門からなり、それぞれ学修相談、レポート執筆支援を担っている。2020年度からは、コロナ禍をきっかけとしてオンラインによる支援を開始した。事前予約することで、1年生は自宅に居ながらピアチューターに学修の相談ができる。一方、中央図書館では予約なしでも対面での相談が可能とした。また、初めてレポートに取り組む1年生のためにピアチューターが制作した動画「レポートの書き方講座」を公開し、学生に主体的な学修

機会を提供している。

支援を受けた学生からは「自分の気づかないことを指摘してもらえた」「自信を持って取り組めるようになった」といった声が聞かれた。複数キャンパスを有する同大学において、オンラインによりキャンパスを超えた支援体制が整った意義は大きい。来年度は、Zoom等を活用したレポート執筆支援のオンラインイベントも予定。オンラインを駆使することにより、1年生に活用される学修支援の実現を目指している。



ビデオコンテンツ「レポートの書き方講座」の一場面

04 金沢大学

コロナ禍の先にある未来社会を拓く人材育成に尽力

金沢大学は、文理融合の学知をもとにイノベーション創出をリードする人材の輩出を目指す「融合学域先導学類」を本年4月に創設する。これに先立ち、同学類が展開する課題発見型学習を通じたアントレプレナー教育がもたらす教育効果の真価を問うべく、同学類の教育方法を取り入れた共創型のオンラインプラットフォーム「ビヨンドコロナフォーラム(BCF)」を展開した。

BCFでは、大学生や高校生が、自ら見出したコロナ禍の社会的課題に対し解決のためのアイデアやビジネスモデルを動画で提案。プロデューサーとして参画する同大教員、地元企業、起業家らの助言を受けながら、事業化を目指

して共に解決策を磨き上げた。約半年の募集の結果、国内外の学生から計407件の提案があり、早くも同大学の学生5グループが起業に向けて準備を進めている。

同大学では、文理融合の学びとSTEAM教育を全学に波及させ、自身の専門に軸足を置きながら異分野・異文化との協働により社会的課題を解決する社会変革先導人材の養成に力を入れていく。先導学類創設を契機に、BCFの取組が示すアントレプレナーを目指す機運を全学で高め、コロナ禍のみならず、未来社会を切り拓くことができる人材を育成していく。



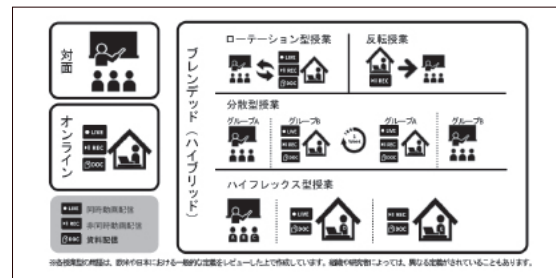
オンラインで開催したBCFイベント「BCFLive」



BCFを運営する学生スタッフ

05 大阪大学

動画コンテンツによる新入生の学習保障～ブレンデッド教育体制確立に向けて～



大阪大学におけるブレンデッド教育の定義

大阪大学では、2020年3月に「ウェルカムチャンネルチーム（座長：佐藤浩章准教授）」を設置した。授業開始前段階の新入生に対し、平日毎日、模擬授業、学習方法やキャンパスライフについて学ぶ動画コンテンツ（総数 63本）の作成・配信を行い、その総視聴回数は 31,359 回（2021年2月19日現在）、また、LINE 公式チャンネル友だち登録者数は、入学生の約 3 分の 1 にあたる 1,025 名（2020 年5月30日現在）となった。

視聴した新入生からは「授業開始が延期になりフラストレーションを抱えていたが模擬授業が解決してくれた」「大学からのサポートを受けていると感じる」など肯定的な意見が多く寄せられた。授業の受け方、レポートの書き方な

どもわからない新入生にとっては、オンライン授業・課題提出への初期対応としても非常に有効であったことから、今後もこの取組は継続していく方針である。

同大学では、高大接続から社会人を対象としたリカレント教育に至るまで、一貫した教育体制の構築を目指し、学習効果を最大化するためのブレンデッド教育（対面とオンラインの学習活動を効果的に組み合わせたカリキュラムおよび授業形態）を来年度以降も教育方法や評価方法を学ぶための FD（教員研修）などの場面で推進していく。

阪大ウェルカムチャンネル配信コンテンツ一覧	
学 習	・阪大模擬授業（遠くで近き仲・知られざる日本とスウェーデンの交流、大学からできる外国語の学び方、幸福とは？・哲学・倫理学の歴史から、月の科学の最前線、ミクロな世界の不思議・量子力学入門、知的書評合戦！・ビブリオバトル入門）・完璧マスター！スタディスキル講座（アカデミックライティング・リーディング、プレゼンテーション技法、大学の学び入門）
学生生活	・OU RADIO ・課外活動オリエンテーション Web サリーオに参加しよう！ ・キャリアセンターのご紹介 ・多言語カフェのご紹介 ・グローバルな交友関係を築こう！
スポーツ・健康	・藤田先生のマツツル体操 ・チェンチェンのうがい・手洗拳法！ ・手軽にできるストレス解消法 - ポジティブ心理学の視点から - ・新型コロナウイルスを知ろう
その他	・ウェルカムメッセージ（全学教育推進機構長） ・履修登録基礎の基礎 ・大阪大学学生歌 ・ウェルカム阪大！新入生交流会ダイジェスト

06 鹿児島大学

バーチャル家庭訪問を教材にヘルスアセスメント教育を実施



教材制作のための撮影の様子

鹿児島大学医学部保健学科では 4 年次にチーム医療実習を実施している。2020 年度は、コロナ禍で通常の実習が困難となったことから、離島住民のバーチャル家庭訪問を教材としたヘルスアセスメント教育をオンラインで実施した。

3 専攻（理学・作業・看護）の教員が鹿児島県三島村の黒島に赴き、学生に扮して一人暮らしの高齢者宅にて家庭訪問を行い、その様子を撮影した動画を制作。教育効果を高めるために、実習の目的・目標、方法、評価、注意事項等を記載した要項を作成のうえ、アセスメントの視点を明確にするためのアセスメントシートも開発した。

実習では、学生が対象者とその居住地域について自ら

の専門性を踏まえたアセスメントを行い、離島での高齢者支援のあり方についてチーム医療の視点で議論。「バーチャルではあったが対象者の生活がよく見え、他専攻の学生と議論することで対象者をより多角的に捉えることができた」といった感想が聞かれた。

コロナ禍におけるバーチャル教材を用いた教育のモデルにもなることから、同学科では制作した動画を公開する予定であり、動画の多言語化も進めている。さらに取組を、他学部と連携した「離島における保農獣イ連携家庭訪問事業-人間・作物・動物・集落の健康のための三島村プロジェクト-」に発展させていく予定である。



オンラインでの学生発表の様子



北海道大学

オンライン教育「バランスドオーシャン」で
トップサイエンティストを早期発掘・育成

東北大学

あらゆる策を実施するニューノーマル時代の総合的学学生支援

群馬大学

新入生に対し、在学生在がオンラインサポートを実施

福井大学

導入壁を軽減したオンライン授業システムの開発

浜松医科大学

対面とオンラインのハイブリッド型医学教育の実践

愛知教育大学

リモートの強みを生かせ！ with コロナ時代のキャリア支援活動

豊橋技術科学大学

経済支援に生活支援。学生の「元気」は大学が取り戻す！

滋賀医科大学

3 密回避して分かったバーチャル人体解剖学実習の有用性

大阪教育大学

教職大学院と附属学校園による New Normal へのサポート

岡山大学

岡山大学・米国務省「重要言語奨学金 (CLS) プログラム」を
オンラインで開催

山口大学

学生と共に育むニューノーマル時代の教学マネジメント
～ 正課・正課外教育の新しい姿 ～

香川大学

第 72 回香川大学祭は、FM 香川とタッグを組んでオンラインで開催！

愛媛大学

ニューノーマル時代の国際連携の取組

佐賀大学

オンライン・ライブ授業とオンデマンド授業を
活用した改良型ハイフレックス授業

熊本大学

オンライン記者会見で熊本発の研究成果を
県外の報道機関にも積極的にアピール

宮崎大学

オンライン完全対応「宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」を通じた
アントレプレナーシップ教育の実践

琉球大学

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う琉球大学の学生支援
～ コロナ新時代に向けた取組 ～

高エネルギー加速器研究機構

ニューノーマル時代に対応した放射光実験施設における
リモート実験と全自動データ測定